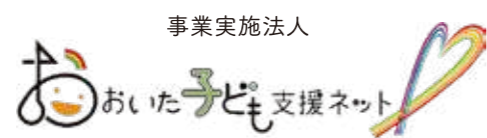


CONET PROJECT

コネットプロジェクト



令和5年度日本財団通常助成事業

ケアリーバーのつながりと

ピアサポートの構築事業報告書

わたしたちのこと

この報告書にCONETの一年間の軌跡をたっぷり書き残しました。それぞれのメンバーなりの想いや表現が散りばめられたこの報告書を通じて、CONETのこと、メンバーのこと、ケアリーバーのことを知っていただくと幸いです。

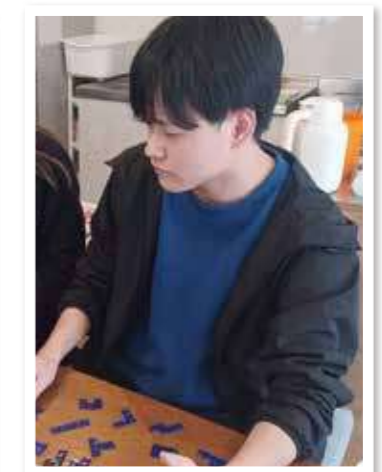
豊富な写真とともにポジティブな記事をたくさん紹介していますが、当然、うれしかったことや楽しかったことがすべてではなく、メンバーそれぞれに葛藤や悩みの日もありました。テンションが高い日も苦しい日もあったこの一年間を、さらにいえばCONETのすべての歴史を振り返ってみて私が最大に実感するのは、何よりもメンバーの自分たち自身が成長してきたんだなということです。

私の思う「成長」とは、何かができるようになることではなく、社会が求めてくる結果や実績を残すことでもなく、「過去の自分に向き合い、自分というものを整理していくことを通して、一步前へ進んだ自分になること」だと思います。「一步」という成長の長さが1センチなのか2センチなのかは個人差があります。また、進んだ先がマイナスに見えたとしても、「マイナス2からマイナス1へ進めた」ことも成長だと私は思います。重要なのは、個人なら個人自身、チームならチーム自身が「確実に前進したんだ」という実感をもつことです。互いをすぐそばで見続けてきたからこそ、私たち自身が仲間の成長を最も実感していると思います。

私たちは「ケアリーバー同士のつながり」ができてほしいと第一に願い、ケアリーバーのために活動をしてきました。一方で、私たち自身もケアリーバーであり、メンバーそれぞれに固有の自分史と苦しさがあります。さまざまな人と出会うなかで、メンバー自身の過去や境遇や心情を顧みて他人に話すことも多かったですが、気持ちを言語化したり話を聞いてもらったりするという体験やプロセスの積み重ねを経て、私たちは「過去の自分」に向き合ってこれたと思います。他のメンバー2人もきっとそうだと思いますが、少なくとも私は、CONETがなければ深く関わらなかったであろう人たちとの関係性のなかで、「過去の自分」に向き合うことができ、そして数センチ前に進めたと実感しています。

私たちは支援者集団ではありません。CONETは相談機関ではありません。メンバーのそれぞれが成長の過程にある一人の若者であり、今後も「過去の自分」に向き合い、整理し、自分なりの一步を踏み出さねばならない局面がやって来るでしょう。そしてそれはまた、CONETがこれから出会う若者についても同じです。だからこそ、「支援」や「相談」という関わりではなく、若者同士が同じ目線で、雑談から始まる対話や経験を重ねていながら相互に成長を実感し合うことに意味があり、それこそがCONETの姿なのだと私は思っています。

CONET PROJECT 川村涼太郎



声に出すこと・拾うことの難しさ

CONET PROJECTに携わる前に私自身・トラウマ・うつ病・人間関係の問題などの様々な壁にぶつかったときに「迷惑をかけてしまう」「措置が切れたのにこんなことで頼っていいのか」と思い相談できず辛い思いをした経験がありました。そのときに周りの方が気にかけてくれたり、話しかけてくれたりしたからこそ助けを声に出すことができました。

私は助けを求められる、助けてくれるつながりがあったから声に出すことができたものの、他のケアリーバーはどのようなだろうか。以前の私のように実は助けを求めていて、声に出せていないのではないかと考えていました。実際に活動で関わっていく中で私と同じように「措置が切れているのに頼ったら迷惑と思っていた」との声がありました。

活動をしているとたくさんの方からありがたいことに「立派」と言ってもらえますが、そこでケアリーバーや、その関係者の方々から「私とは違う」「あの子とは違う」と壁を感じてほしくないと思っています。過去の私はひどく荒れていて、当時の私を知る人はみな「あの頃は大変だった」とここまで生きていくことができた私の成長を見て泣いてくれるほどでした。

今でも私は不安なことはたくさんあります。だから話してくれることは同じ思いをしているのは私だけじゃない、この苦しみは甘えじゃなかった、と私の救い、成長にもなってくれています。だからサポートしてあげている、してもらっているではなく、お互いに助け合う。孤独を少しでも軽くできる関係になれたらと思って活動してきました。

令和5年度の活動では、県外のケアリーバーとも交流を通してつながれたとともに、改めて「社会的養護経験者」がライフステージごとにぶつかる困難を感じる1年だったと思います。私自身、様々な困難を感じてきたけれども、まだ経験していないライフステージがあり、それをケアリーバーと接する中でリアルを知ることができました。その中でも特に「結婚」「出産」「育児」の困難さを目の当たりにし、支援の難しさと一人のケアリーバーとして他人事ではないと怖くなりました。

それでも支えてくれる存在がいることを私は知っているから幾分かは気持ちが違います。

そんな存在がいるのだと知ってもらい、少しでも安心してもらえようみなさんと関わっていければと思います。

CONET PROJECT 内田理美



あなたとわたしとCONET ～人間関係に大切な「知ること」「知ってもらうこと」～

この活動報告書を手にとっていただき、ありがとうございます。きっかけは何であっても、少しでも私たちのことを知ろうとしてくれたことで、社会的養護分野の理解が進んでほしいと思います。【ケアリーバー】…社会的養護を離れた若者を指す言葉です。しかし、自身の経験はこの身から離れることはなく、私の人生はこれからも続いていきます。社会に出てからは施設のことを知らない人との関わりが当たり前になってきますが、自分を「知ってもらう」ときの煩わしさは言葉にならないものがあります。CONETのコンセプトとも重なるケアリーバー同士のコミュニケーションでは、施設や里親家庭などでの経験は似ているので、詳しい注釈がなくとも話がしやすく、安心できるというメリットがあります。私自身もその経験があり、あるケアリーバーの方と交流させていただいたときに「普段はこんな話はしませんが、お互いわかっていることなので気楽です。」と話していただいたことがあり、似た境遇同士すなわち、「お互いに知っている」ときの交流には意味があると改めて考えました。とはいえ、ケアリーバー同士が交流をする機会は多くないので、CONETのような当事者活動や、全国にある居場所

等の相互交流事業の重要性を周知していく必要性を感じています。少しだけ【ケアリーバー】という言葉について私の考えを述べたいと思います。単刀直入に言うと、私はこの言葉を気に入っています。現時点では共通のコミュニティを指す言葉として適当であり、自分を「知ってもらう」ときに有効な言葉と考えるからです。便利だから使うくらいの感覚です。似た意味として【社会的養護等経験者】【ユース】などが使われていますが、大事なのは呼び方ではなく、今後の社会や各個人がどう受け止め、問題を知ろうとしているかだと思います。

最後に今年度のCONETを振り返ると、ケアリーバーとの相互交流という軸は昨年度よりもパワーアップしていると実感しており、人々の出会いや経験が積み重なったことで、様々な機関の研修会や地域のイベントに参加することができました。若者たちが社会に対して声を上げ、「知ってもらう」ということが実現しつつあるのかなと思いました。幅広い活動の中で成長していくCONETにこれからも目が離せない！そして、すべての子ども・若者たちにとってより良いワクワクドキドキな社会を切り拓いてほしいと思っています。

CONET PROJECT 後藤拓也





CONET STATION でのんびり!!

居場所の日常～雑談、ただ来て過ごす

私たちの活動拠点CONET STATIONに来る人には、何かの相談や話を聞いてほしいなどの目的がある場合と、何か用事があるわけではないけど来てみたなどの明確な目的がない場合があります。勉強が進まないからここでしたい、ただ暇だから、用事の前の時間つぶし、なんとなくなど。

「〇〇さんいますか〜?」「なんかあったわけじゃないけど寄ってみました」「ドーナツ一緒に食べましょう」と扉を開いて来てくれることが多いです。(アポなし突撃訪問もあります!※大歓迎)

お菓子をつまみながら、最近あったことの雑談、動画鑑賞などゆったりした時間を過ごすこともあります。初めて来たという方でもリラックスした様子で過ごしてもらえるようにまずはこちらがリラックスして接することを意識しています。

雑談の中で関係性ができて、「あれ、それって困ってない?」「そのままだと〇〇になっちゃうけど大丈夫?」とこちらがツッコみを入れることで「え、そうなんですか」と若者自身が「困り」に気づくこともあります。このように若者自身が「困り事」に気づいていないことも多々あるので、それに気づいてもらい、どのような解決方法があるのか一緒に考えて対処していくことへと繋がっていきます。

CONETが若者と接するうえで最も大切にしているのは「雑談」です。たかが「雑談」と思われるかもしれませんが、とても重要なことなのです。

初対面のスーツを着た大人とかしこまった出会いではなかなか「相談」にいきつけないというのが私たちの考えです。仕事上での相手を知りたいのではなく、その人自身がどんな人なのかを雑談の中で知ることによって「相談員の〇〇さん」ではなく「ネコ好きの〇〇さん」という親しみやすい入りになり、「相談」へとスムーズに移行できるのです。

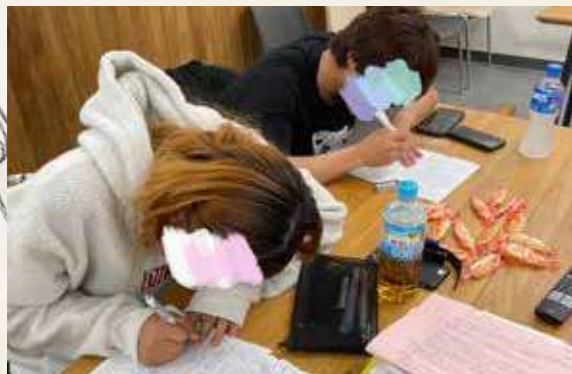
CONETは雑談を通じて同じような境遇で気軽に接することができる「友達」「先輩」「近所の兄さん姉さん」という存在になれたらと思っています。



まったり、おしゃべり!



楽しいひととき



一緒にお勉強?



こんな服はどう?



フードバンクの食料品はいかが?



陳列ありがとう!



STATION 近くでランチ♪

寄付品の提供

CONETに協同してくださる相談機関「児童アフターケアセンターおおいた」(以下、「センター」)には、様々な企業や団体から洋服や化粧品、食品、日用品のご寄付があります。若者の交流拠点であるCONET STATIONにも寄付品を置かせてもらい、CONETやセンターとつながってくれた若者たちにそれらの寄付品を提供しています。

STATIONやセンターに来所してくれた方には直接渡したり、来所が難しい方には自宅まで渡しにいたり、ニーズに合わせて様々な提供の方法を用意しています。現在、STATIONでは寄付品をわかりやすく陳列していますが、その発案や陳列の仕方は来所してくれた若者からのアイデアであり(下記画像)、そのおかげで、利用者からは「見やすい」「選びやすい」「お店みたい」との声をいただき、若者の手に渡る数も増えていきました。

相互交流のメリット“Win-Win”がいい

CONETと若者との交流は雑談や相談以外にもあります。若者のアイデアで寄付品がわかりやすくなるように陳列してくれたり、好きな動画を観たり、STATION近くのご飯屋さんで一緒にランチをしたりといったことがありました。ご飯やお菓子を「一緒に食べる」ことで関係を築きやすくなるとメンバー共々いつも感じています。活動の中で得たこれらの経験は、児童相談所職員や関係機関の支援者の方々に、日々の支援に取り入れてほしいというメッセージとして伝えていきたいです。

STATIONの近くには市役所や郵便局があり、何かと必要な手続きも一緒に行いやすく、駅からも近いので、若者が用事の前後にもよく来所してくれます。交流拠点がアクセスの良い場所にあることは若者たちにとって大きなメリットであり、利用してくれる理由や動機に強く関係していると実感しました。





一緒に広報をみて投票!



あっという間に荷造り&引越し



無事に届きますように～



住民票取得はもうお手の物

市役所も一緒に行けばこわくない

ケアリーバーとの関わりの中で、市役所、郵便局、病院、不動産屋、自転車屋など各種機関・お店への同行や引越しの手伝いも行いました。一人では行きづらい、手続きのやり方がわからない、何を聞けばいいのかわからない、面倒で後回しにしているなどの理由で行けていない若者が数多くいます。例えば、選挙投票を経験したことがないという話題から「期日前投票に行ってみよう」というアイデアが生まれ、候補者がどんな人か、どんなことをアピールしているのかをSTATIONで事前に共有してから、みんなで一緒に投票に行くことで無事に投票を済ませることができました。「一人じゃなかったので緊張せず投票できました」「大人になったなあって感じ」「いいことした気分」とそれぞれにとって大切な経験になりました。

一から十までこちらが手続きをするのではなく、「一緒に考え、探し、聞き、学ぶ」という体験をCONETは大切にしています。

ある事例を挙げると、その若者とは複数回市役所などに一緒に行くことができました。最初は窓口の方に本人から話しかけることができなくてこちらが誘導する状態でしたが、現在では市役所に入るやいなや、まっすぐに窓口へ行き、何の手続きをしたいかを本人が自分で伝えることができるようになりました。当初に比べると目に見えて成長を感じたこの体験は、利用者本人の自信にも繋がりました。この事例以外にも、できないことができるようになったという出来事があり、利用者本人の達成感が好循環を生み出しています。

CONETが若者に同行することで、メンバー自身の経験値も上がっていきます。お手伝いなどを行っているものの、私たちも一人のケアリーバーであり、まだまだ困り事も乗り越えられていないことも多くあります。頼りない一面もあるかもしれませんが、そこが良さでもあると思います。同じ立場に立って一緒に苦しみや困難を分かち合い、一緒に経験をして一緒に乗り越える、という経緯からしか得られない関係性があると感じています。



みんなで夏祭りへ!



みんなで初詣に Go!



県外のケアリーバーとの交流!



社会的養護等経験者全国交流会に参加!

支え合い、和気あいあい

地域のイベントや行事にも行くようになりました。街でよく目にした地域最大級の夏祭りの広告を見て、興味はあるものの一人で行くのは心細いと感じることがありました。そこで、夏祭りへ一緒に行くケアリーバーを募集したところ、これまでつながった人たちが集まってくれました。その日、初めて会った人同士でも、“CONET”という共通の場所を介することで、緊張感を和らげることができたと思います。そんな中で撮った写真は、まさにケアリーバー同士の相互交流を表しており、今年度の活動の中でも意味のある一枚になりました。

さみしいときにはみんなで支え合い、うれしいときにはみんなで盛り上がりやすいような取り組みをこれからも続けていきます。これらの活動を通じて、日常から非日常まで様々な経験ができることの大切さを改めて考えることができました。

そして全国へ…

CONETを通じた素敵な出会いが積み重なり、県外のケアリーバーともつながることができました。熊本県の居場所事業である「かたるペースくまもと」では、初対面ながらも私たちのことを温かく受け入れていただき、「施設にいたときあるある」や「社会に出てから困ったこと」などの話題で盛り上がりました。ケアリーバーの悩みは県外であっても共通なんだということを実感しました。また、居場所事業をこの目で見ることによってCONETの在り方についても考え直すきっかけになりました。

令和6年1月に行われた「社会的養護等経験者全国交流会」に参加したときは、全国から集まったケアリーバーとパフォーマンスを交えてゆるく交流したり、こども家庭庁も巻き込んで今後の社会的養育環境について意見表明を行ったりと、私たちや仲間の魅力を感じられる時間となりました。



STATION でカードゲーム



施設のイベントに参加してみた



推しをみんなに発表!



「今日の交流会楽しかった人〜?」

こどもたちや施設との関わり

CONETは児童養護施設のこどもたちとも関わってきました。施設にいるこどもたちは退所前になると「困ったときはココに相談するといいよ」と、地域の機関（相談所など）を紹介されることも多いです。しかし、社会に出て困ったからといって初対面の人に相談できる若者は多くありません。

そのためCONETには、こどもたちが施設にいるうちから彼らと関わっておき、つながりをつくることで、こどもたちが将来困ったときに頼りやすくしたいという思いがあります。「顔見知りであれば、退所後でも話しやすい」というメンバーの考えも背景にはあります。似た境遇・経験のある人がいるCONETに魅力を感じてもらい、頼り先の選択肢の一つになってもらえるのではないかと考えています。さらに、私たち自身の経験を生かして、こどもたちと関わっていけるという強みもあります。

「じゃない」交流会

令和5年7月には【推しのこと】と題し、施設の高校生対象の交流会を開催しました。県内の施設の高校生が集まる行事としてはSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）という研修会が行われていますが、CONETメンバーは自分たち自身の経験から、初対面かつ他施設のこどもと関わるのはハードルが高いということを知っていました。そこで、まずはこどもたちが他施設の人と顔合わせをすることでその後のSSTの効果を高めようという考えから、研修「じゃない」集まりをつくることを目指し、本交流会を企画しました。

交流会の内容としては、自分の「推し」を他の人に紹介するグループトークを行いました。スムーズに話し合いが行えるようにミニゲームを用意し、緊張感をほぐすことで、活発な交流にすることができました。結果として、コミュニケーション能力を育む研修にもなり、有意義なイベントになりました。



たくさんの交流に感謝

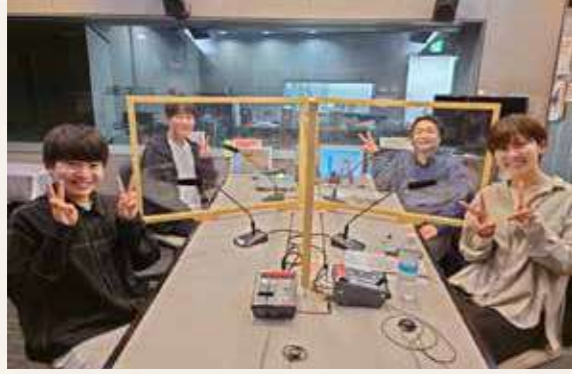
～「人」と「想い」が集まるSTATION～

相互交流を行う拠点CONET STATIONには、ケアリーバーやこども以外にも、児童養護施設や行政の職員さん、法人や団体、民間企業や報道関係の方、大学の先生や学生など、地域も分野も様々な方が県内そして全国から足を運んでくれました。ここではCONETが生まれた経緯や活動の内容について、あるいはメンバーそれぞれの体験談や考えについてお話することもありました。皆さんがとても興味をもってくださっているということが、私たちへの質問の多さでいつも伝わってくるので本当にうれしく思います。「勉強になった」「参考になった」「ケアリーバー（当事者）の生の声を聴けてよかった」などと言っていただくことも多く、すごくありがたいです。

一方で、私たち自身も非常に貴重な経験、出会いに恵まれたと思っています。社会的養護の環境で育ってきた私たちは、出会う大人のほとんどが児童養護施設や里親家庭、児童相談所の人たちでしたが、CONETの活動を通して出会うことができた人たちは冒頭に挙げたように社会的養護という分野に所属している人だけではありませんでした。世代を問わず他業界、他分野の多くの方が社会的養護やCONETに強い関心を抱いてくださっていること、「もっと知りたい・学びたい」「自分たちにも何かできることはないか」と考えてくださっていることを知りました。このように少しずつ、確実に、社会的養護やケアリーバーのことを知ろうと、関わろうとしてくれる人が増えてきたことを実感します。

CONET PROJECTという小さな一歩がいろいろな地域や人たちにどんどん知られていき、たくさんの人とつながることができて本当にありがたいです。このページには載せきれなかった写真も多いですが、数々の出会いや交流はCONETの原動力にもなっています。これからも多くの方々に興味をもってもらえるようなCONETでありたいと思います。





ラジオに出演!



地域のイベントに出演!



みんなでオレンジリボン運動に参加



地域のお寺で映画上映会&ピザ作り…に参加

発信! 夢を語るCONET

いろいろなところで情報発信する機会にも恵まれました。OBS大分放送の「ANA-BAR」というラジオ番組に2回出演した際には、児童養護施設や里親家庭はどんなところなのか、実際に私たちはどんな思いを感じながら生活してきたのか、CONETとしてどんな活動やイベントをしていきたいかなどについて丁寧に質問していただき、私たちの率直な思いを発信することができました。

令和5年10月1日には、地域で様々な取り組みを行っている団体が一般向けに情報発信するイベント「OITA Well-being EXPO 2023」が大分駅前広場で開催され、CONETも出演しました。社会的養護やケアリーバーのことを世間にもっと知ってもらいたい、そんな若者のために私たち自身ができることをしたいという夢をたくさん語ることができました。

「つながり」を、さらに向こうへ

大分県では令和5年11月10日にオレンジリボンたすきリレーという児童虐待防止を啓発する社会運動が実施され、CONETも参加しました。里親さんや児童養護施設の職員さん、県・市、児童相談所、地域の方など、多くの大人が子どもたちの明るい未来のために一丸となっていることを改めて感じ、社会的養護で育った当事者としてうれしく思いました。

CONETを知って興味をもってくれた地域の方との関わりも多くありました。「昌光山 妙瑞寺」というお寺もその一つで、お寺が企画した地域交流のイベントにCONETも招待していただき、そこでお寺や地域住民の方々と楽しく交流しました。

これらのように、支援してきた側/されてきた側という立場や、社会的養護に携わっている/いないという所属に関係なく、いろいろな人たちとの交流(つながり)を大事にしています。



県外の行政・民間団体とオンライン研修



児童相談所の職員研修



地域共生社会を考えるシンポジウムに登壇



児童養護施設職員等の合同研修会

研修やシンポジウムへのコミット

こども若者の福祉分野では、近年、「当事者参画」や「意見表明」というキーワードが多く聞かれるようになり、社会的養護環境で育った若者や、実際に支援を受けているこどもの「当事者の声」が今まで以上に大切にされる時代になってきました。制度や施策の検討プロセスのみならず、研修やシンポジウムにもケアリーバーの参画している姿が見られるようになりました。

CONETも活動していく中で、さまざまな研修の場に呼んでいただく機会がありました。児童相談所や児童養護施設の職員が「児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付事業」について学ぶ研修や、県外の行政機関と民間団体がともに社会的養護について学ぶ研修にゲストスピーカーとしてCONETが参加し、養育やサービスを受けてきた当事者の視点での語りを参加者の皆さんにお伝えしてきました。

令和5年12月2日には、大分大学で「地域共生社会の実現に向けたセミナー」が開催され、パネルディスカッションの一枠としてCONETも活動報告を行いました。これには大学教員や学生も参加していたため、社会的養護に詳しくない方にも伝わるように一般向けの説明を意識し、養育を受けていた当時のことや、社会に出てから直面してきた様々な思いを私たちなりの言葉で参加者の皆さんにお伝えしました。

さらに令和6年2月21日には、児童養護施設や里親・ファミリーホーム、児童自立支援施設、児童心理治療施設、児童相談所など大分県の社会的養育に携わる支援者の合同研修会が行われ、3つの事例発表の一枠にCONETも登壇しました。活動の経過を発表するとともに、私たちが考えたグループワークを通して、支援者の皆さんにアフターケアの課題と展望について考えていただきました。こうした支援者の学びの場に「当事者の声」を取り入れてもらえることを本当にうれしく思います。



規範をデザインに・属性を多様性と安心に

「普通●●でしょ!」って言われる。その「普通というか規範」になじめず、適応を強いられ困っちゃうってこともや若者がいます。

「手帳があれば…」「〇〇限定」などの属性が求められる制度や属性に偏る空気感。属性を嫌ったり、押し付けられることが嫌で、様々な社会サービスを楽しむことができない若者もいます。

CONETチームの若者たちは、「楽しいのがいじゃねえ!」「自分たちも楽しめるが大切じゃねえ!」とあらゆる方々に、自分たちらしく、ノビノビとこの活動を運営してくれます。

なので。

大分県内のみならず、たくさんの方がこの活動に関心を寄せ、たくさんの方が支えてくれています。

だから。

この活動に、「これからの明るい未来の支えあいのデザイン」の可能性を感じます。

ケアリーバーという属性で始めたこの活動が、若者たちのデザイン力によって規範や属性を乗り越えて、「安心できる気軽な相互扶助モデル」として、グングン育っています。社会的養護を取りまく制度や実践も変化しています。大人社会にとらわれず、子どもや若者がますます「社会のまんなか」から発信・行動できる環境を大人社会が創っていくことの必要性を感じまくった2年目となりました。

特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット 矢野茂生

意見表明を考える

CONETで活動する若者たちは、社会的養護経験者(ケアリーバー)として過去と現在の自分たちの思いを少しずつ表現してきたように感じています。彼らが安心して意見を言えるのは、大分県の社会的養護に関わる施設、機関、大学、行政等がある程度協働できているからなのかもしれません。

世の中には社会参加しているケアリーバーが多くいるでしょう。しかし、中には、自分の思い(意見)をうまく表現できずに悩み・苦しみ、そして孤立を感じている方もいるかもしれないと推察します。その背景には、社会的に養護されていた頃の生活と退所後の社会生活との間にギャップがあるからではないかと想像します。

意見が必ずしも通るとは限らない社会ですが、子どもたちの意見がちゃんと聴かれ大切に扱われること自体が大事であり、意見が通る・通らないということよりも、子ども自身が「自分の意見を大切にしてくれた」と実感し安心できた経験の積み重ねのほうが大事であるように思います。子どもたちがそうした安心感を積み重ねていくことは、彼らが社会に出たときに、安心して自分の思いを表現する力につながると思います。

だからこそ、社会的養護環境や家庭で生活する子どもたちが自分の意見を言える場所と機会が今後必要であり、子ども自身やまわりの子どもたちの命と生活を守るための意見表明となるアドボケイトのシステム構築を願っています。そしてこれは若者についてもそうだと、CONETに関わってきて実感しました。これからもケアリーバーのみならず、さまざまな若者の意見が大切にされる社会となってほしいと思います。それらの経験を経たケアリーバーの活動を見守っていきたいと思います。

特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット 中野誠司

1: CONET STATIONに来てくれた方々

- 総訪問者数 166名(実数)
 - ー うちケアリーバーの方々 64名
 - ー ケアリーバー以外の方 102名

2: CONETからの発信

- 大分県児童相談所職員研修会(2回)
- 大分県児童正午施設協議会職業指導員連絡会
- 社会的養育施設職員等合同研修会
- 自立支援資金貸付制度に関する研修会
- 旭川市・そーさぼ旭川でのこども若者研修会
- Oita Well-being EXPO2023
- OBSラジオへの出演 など

3: CONETのアウトリーチ

- 市役所等への手続き同行支援
- 大学入学式への同行
- ケアリーバーのご自宅訪問
- 引っ越し・お見舞い・食料品配布などの活動
- 児童養護施設等への訪問
- 交流会や意見交換会の開催
- みんなの後見センターとの学習会
- 児童養護施設協議会 旅立ち激励会への参加
- オレンジリボンたすきリレー
- 神社への初詣
- 妙瑞寺での地域交流会への参加
- 熊本県アフターケア事業 かたるベースくまもとへの訪問・交流
- 社会的養護等経験者全国交流会への参加

Special Thanks

令和5年度もCONETを温かく見守り支えてくださった皆様、本当にありがとうございます！
今までに関わったり、STATIONに来ていただいたりした皆様のご紹介です。（個人名を除き敬称略）

4: CONETの「語り」（さまざまな場面で発信してきたことの一部）

・「ザ・大人」には話しにくくても、ちょっと身近に感じる人になら会える・話せる、つながりたいという若者の背中を押したい。つながりの選択肢を広げたい。助けてくれる「ザ・大人」が周りにたくさんいることも伝えていきたい。

・サポートしてあげている／もらっているではなく、お互いに助け合う。お互いにWinWinで孤独を少しでも軽くできる関係になれたら。社会的養護の経験があるからこそ得ることもたくさんあると知ってもらいたい。

・ケアリーバーにとって厳しい設計が社会の至るところにみられるが（保証人問題など）、そもそも世間的に「社会的養護」があまり知られておらず、アフターケアの制度・サービスがあまり整っていない。

・措置解除の前後に「こういう時は頼ってね」といろいろな大人から言われるけど、当時は理解できていなかったり、困った時には時間が経っていて忘れていたりしている。覚えていても、時間が経っていると頼りづらい。

・暗いことばかりじゃなく、気軽に寄ってもらえるということが伝わるようにインスタなどで発信するようになっている。

・社会的養護の学生やケアリーバーなどへの奨学金や貸付金など、経済的な支援をもっと充実させてほしい。また、制度は新しくできるものなので、当時経済的な支援を受けられなかった人たちにも救済措置がほしい。

・児童相談所は行政機関なので人事異動でケースワーカーが頻繁に変わったり、職員が「やりたくても動きにくいこと」があったりすると思うが、こども家庭庁ができたこともきっかけに、これからの児童相談所のあり方を見つめ直して、どんどん改革して行ってほしい。児童相談所はこどもに直接かわり、こどもの人生に大きな影響を与える存在だからこそ、児童相談所だけは、古い行政感にとらわれず、行政っぽくない行政機関を目指してほしい。

・自分たちが施設や里親家庭で暮らしていたとき・・・どんなに迷惑をかけてもたくさんの大人が見捨てずに向きあってくれたおかげで生きてこれた。息抜きをしたいときや、大人と距離をおきたいときもあるので、施設にいても「ちょっと家出できる場所」がほしかった。

たくさんの方々が耳を傾けてくださいました。ありがとうございました。

Supported by 日本財団



☆出会ってくれたケアリーバーの皆様

大分県副知事	昌光山 妙瑞寺(大分市)
大分県福祉保健部 こども・家庭支援課	阿南農園(杵築市)
大分県中央児童相談所・中津児童相談所	グリーンファーム(杵築市)
大分県社会福祉協議会	日浦農園(杵築市)
大分県児童養護施設協議会	フードバンクおおいた
児童養護施設 聖ヨゼフ寮	TsunAが～る
児童養護施設 清浄園	全国児童家庭支援センター協議会 会長
児童養護施設 山家学園	東京都世田谷区児童相談支援課
児童養護施設 鷹巣学園	東京都自立支援コーディネーター協議会
児童養護施設 光の園	東京都立大学准教授
児童養護施設 栄光園	北海道医療大学助教
児童養護施設 別府平和園	早稲田大学社会的養育研究所
児童養護施設 森の木	株式会社三菱UFJリサーチ&コンサルティング
児童養護施設 小百合ホーム	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
一緒に歩こう会 居場所サロン わかばハウス	社会福祉法人子供の家 児童養護施設 子供の家
大分県弁護士会	CVV(Children's Views & Voices) 副代表
大分大学福祉健康科学部社会福祉実践コース	NPO法人Giving Tree ピアカウンセラー/NPO法人IFCA 副理事長
大分合同新聞社	NPO法人バブリング 代表
TOSテレビ大分記者	認定NPO法人かものはしプロジェクト
テレビ局アナウンサー	認定NPO法人ブリッジフォースマイル かたるベースくまもと
株式会社Cont	認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 代表
株式会社ファイン	NPO法人そーさぼ旭川&旭川市
竹尾真由美 様	NPO法人丸亀街づくり研究所 アフターケア事業所わかっか
大塚あかり 様	NHK放送局ディレクター
一般社団法人若葉会 代表	西日本新聞社
産前産後ケアサロンtiti	

たくさんの方に興味をもっていただきました！ありがとうございます♪



PHOTO
ALBUM



令和5年度日本財団通常助成事業
「ケアリーバーのつながりとピアサポートの構築事業」
— CONET PROJECT —



CONET TEAM
川村涼太郎・内田理美・後藤拓也

事業実施法人 特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット